

平成30年度教育事業

そにとキャンプ 旅立ちのキャンプ



1. ねらい

- ・ 体験を通して得たもの、感じたこと（進歩したこと）を再確認する。
- ・ 仲間との再会を喜び合う。
- ・ 冒険での体験を振り返り自己肯定感の再構築を行うとともに新たな目標をもつ。

2. 実施日

12月15日（土）～16日（日）

3. 対象者

発達障害のある小学校3～6年生

4. 参加者 / 募集定員

9名 / 12名

5. プログラム（要約）

全3回の最終回として、1泊2日のキャンプを実施した。今回もキャラクター「そにと」からミッションが与えられるストーリーキャンプを行った。活動全体においては「手順カード」を活用し、「キャンプの約束」により具体的な好ましい行動を示し、達成感を味わうことができたようにした。

キャンプのスケジュール

12月15日（土）

「はじまりの式」
「亀山ハイキング」
「カブラ大会」

12月16日（日）

「ウォークラリー」
「野外炊事」
「そにとキャンプのふりかえり」
「むすびの式」

12月15日（土）

「はじまりの式」の後に、今回もキャラクター「そにと」から「亀山ハイキング」のミッションが与えられた。班ごとに決めたフレーズを大きな声で山頂から叫び、冬晴れのもとあちらこちらで歓声が響いた。また、全員で声を合わせて「ヤッホ」と叫ぶと、少し遅れて声が聞こえ、やまびこを体験することができた。

夜には「カブラ大会」を行った。全員で約20mの長さの「ナイアガラの滝」を作った。参加者は、それぞれ一枚一枚慎重に積み重ね、立派な滝を完成することができた。



12月16日（日）

ウォークラリーで館内外を巡りながら、これまでのキャンプを振り返るクイズに挑戦した後、「野外炊事」に取組んだ。食材を洗ったり切ったり、班で協力して下準備を進め、大鍋で煮込んで完成した。野外炊事も3回目となり、てきぱきと進めることができていた。

午後からは、「そにとキャンプふりかえり」に取組んだ。掲示された写真を見ながら、全3回のキャンプのふりかえりを行った。

むすびの式では、「そにとキャンプ修了証」が手渡された。修了証とリーダーからのプレゼントを手にした参加者は、笑顔で自然の家を後にした。



6. まとめ

今回のキャンプは、様々な場面で「チームそにと」として全員で協力し、プログラムを進めていくようにした。参加者は、班の仲間だけでなく他の班の仲間ともたくさんかわりながら過ごしたことで、連帯感を持つようになった。

そにとキャンプに参加したことで、子ども同士がつながり、保護者同士がつながっていく。このようなつながりを継続できるよう、自然の家としてこれからも支援していきたい。

（企画指導専門職 上田 考浩）

平成30年度教育事業 そにっとキャンプ 冒険のキャンプ

1. ねらい

- ・ 冒険的なプログラムをやり遂げることで達成感をもつ。
- ・ 協力することの大切さを実感させ、社会性を養う。
- ・ 成功体験を積み重ねる中で、自己肯定感を養う。
- ・ 保護者の交流と子育てについての意見交流をはかる。

2. 実施日

8月24日（金）～8月26日（日）2泊3日

3. 対象者

発達障害のある小学校3～6年生
及びその保護者

4. 参加者 / 募集定員

8名 / 12名 保護者8名

5. プログラム（要約）

全3回の第2弾として、親子での2泊3日の冒険のキャンプを実施した。子どもたちは山・森・水の冒険に挑戦し、保護者は、ワークショップや野外炊事など、親子別のプログラムを実施した。

出会いのキャンプ同様に「そにっと」のキャラクターを活用し、ミッションが与えられるストーリーキャンプとして実施した。活動全体においては手順カードを用い、子どもたちに各プログラムの流れを事前に提示し、見通しをもって行動できるようにした。また、「キャンプのやくそく」により具体的な好ましい行動を示し、達成感を味わうことができるようにした。

キャンプのスケジュール

【子どもプログラム】

8月24日（金）1日目

「はじまりの式」「山の冒険（後古光山登山）」「ふりかえり」

8月25日（土）2日目

「森の冒険・アスレチック」「水の冒険・カヌー」「キャンプファイアー」「ふりかえり」

8月26日（日）3日目

「野外炊事」「3日間のふりかえり」「むすびの式」

【保護者プログラム】

8月24日（金）1日目

「はじまりの式」「ワークショップ」「研修」「野外炊事（子どもたちへ夕食を）」

8月25日（土）2日目

「ワークショップ」「キャンプファイアー」

8月26日（日）3日目

「ワークショップ」「3日間のふりかえり」「むすびの式」

8月24日（金）

<子どもプログラム>



「そにっと」に招待され約3ヶ月ぶりに自然の家へ戻ってきた子どもたちは、再会を喜ぶとともに新たなミッションに期待を膨らませ、はじまりの式を迎えた。

「そにっと」から最初のミッション、「山の冒険」へ出かける指示が与えられると、子どもたちはヘルメットをかぶってマイクロバスに乗り、後古光山（892m）へ向けて出発した。

針葉樹の森の中を数分歩き、目の前にロープが垂らされた岩場が現れると、子どもたちはロープを握り全身を使って登り始めた。途中の崖ではスリルを味わいながら一歩ずつ慎重に登り、山頂にたどり着くと達成感が笑顔として表れた。登頂を終えた子どもたちは、下山時、足元に注意し、滑りやすい坂を皆で励まし合いながら下りていった。下山後、自然の家に戻ると、保護者が作ったちゃんこ鍋や励ましのメッセージが準備してあり、子どもたちは感謝しながら食べた。夜、子どもたちは、テント泊を体験した。

<保護者プログラム>

地球元気村自然学校校長の奥田博氏を講師として、プログラムを進めた。自己紹介とアイスブレイクの後、ワークショップの中では子どものことで困っていること等について交流した。また、作業療法士の宮崎瑠理子氏を講師に迎え、「学齢期に大切にしたい親子の関わり」についての研修を行った。その後は、子どもたちのためにちゃんこ鍋をつくりながら、保護者同士の交流を深めた。

8月25日(土)

<子どもプログラム>



2日目は「森の冒険」として、冒険の森inやまぞえに移動しアスレチックに挑戦した。とても高く足がすくむような所や足場が揺れて不安定な所など、それぞれ勇気を振り絞りながらクリアしていた。

午後は布目ダムに移動し、「水の冒険」として班ごとにカヌーやローボート、ペダルボートにチャレンジした。2日前の台風の影響で、普段より水量が多かったり、少し風が強くて進みづらかったりしたが、時間いっぱい楽しんでいた。

<保護者プログラム>

ロールプレイや意見交流を通して、ふだんの子どもへの接し方や声のかけ方を振り返っていった。また、奥田氏から、以前にそにっとキャンプに参加した母親が書いたブログの内容や今も交流のある子どもたちの話を聞くことで、自分の子どものよさに新たに気づく保護者が多くいた。終始、和やかな雰囲気の中でワークショップが行われ、保護者同士の関係がだんだんと深まっていく様子が窺えた。

<子ども・保護者 合同プログラム>



夜のキャンプファイアーでは、満天の星空の下、リーダーが進行するゲームや歌で盛り上がり、元気な声が森の中に響いた。最後に保護者から我が子に向けて、二日間で芽生えた思いを伝えた。

8月26日(日)

<子どもプログラム>



最終日、子どもたちは最後のミッションとして、「保護者に美味しいカレーを振舞う」ことに挑戦した。前回の出会いのキャンプでの経験を活かして、調理とかまどの係に分かれて作業に取り組

んだ。出来上がったカレーを各自の保護者に食べてもらうため、テーブルにセットし、照れながら誘いに行く子どもたちの微笑ましい姿が見られた。テーブルには、子どもたちが自分の保護者に当てて書いた手紙が添えられていた。

後片付けを終え、ふりかえりをリーダーと共有した後、カードに互いの名前やメッセージを書き合い、「旅立ちのキャンプ」での再会を約束しあい帰路に就いた。



解散後、3日間ともに活動し助け合った仲間と離れる寂しげな子どもたちの表情が見られた。一方で、キャンプの期間中、離れて過ごした

我が子との会話を楽しげに交わす保護者の嬉しそうな笑顔が印象的であった。

<保護者プログラム>

奥田氏がコーディネーターとなり、前年度のそにっとキャンプにも参加された保護者の話をもとに、保護者の会を立ち上げることの意義や、活動の方法、現状について情報交換を行った。

子どもたちが野外炊事で作ったビーフカレーが出来上がり、保護者を迎えに来た際には、子どもたちと手を取り合い、笑顔で会話する姿が見られた。それぞれのビーフカレーの横には子どもたちからのメッセージも添えられており、涙ながらに読む姿があちこちで見られた。

6. まとめ

そにっとキャンプは3回シリーズで、今回は3日間のメインキャンプであった。前回のキャンプで培った、挑戦する意欲と仲間とのつながりをより深め、協力して活動することの大切さや喜びを感じ取らせることを目指してキャンプを企画した。山・森・水の冒険をやり切り、仲間意識が高まった子どもたちの姿が印象的であった。

今回は、子どもたちだけではなく、保護者も参加し、親子並列型のキャンプとした。親子が別々のプログラムに取り組むことで、保護者は、我が子との関係を見つめ直し、親子の絆を深める機会になった。また、保護者同士で寝食だけでなく、ワークショップや野外炊事など協働することで、子どもたち同様につながりも深まった。

保護者は、このキャンプをきっかけとして、今後も情報交換や交流を深めていくという意識を高めていた。

12月に実施する「旅立ちのキャンプ」では子どもたちのさらなる成長を期待する。

(企画指導専門職 上田 考浩)

平成30年度教育事業
そにとキャンプ 出合いのキャンプ



1. ねらい

- ・新しい仲間と出会い、親交をもつ。
- ・みんなで協力する気持ちを培う。
- ・やり遂げることの喜びを感じる。
- ・自然（光、風、水、草木）を体感する。

2. 実施日

6月2日（土）～6月3日（日）1泊2日

3. 対象者

発達障害のある小学校3～6年生

4. 参加者 / 募集定員

10名 / 12名

5. プログラム（要約）

「そにと」のキャラクターを活用した、ストーリーキャンプを行った。活動全体においては手順カードを用い、活動の流れを子どもたちに事前に提示し、見通しをもって行動できるようにした。また、「キャンプのやくそく」により具体的な行動を示し、達成感を積み重ねた。

キャンプのスケジュール

6月2日（土）1日目

「はじまりの式」

「そにとウォークラリー」

「ナイトハイク」

「ふりかえり」

6月3日（日）2日目

「野外炊事」

「ふりかえり」

「むすびの式」

6月2日（土）

「チームそにと」として、国立曽爾青少年自然の家に集まった10人の子どもたちは、はじまりの式の後、新聞を使ったゲームを二日間活動を共にする仲間やキャンプリーダーと一緒に楽しんだ。

その後、「そにと」からのミッションCDを聞き、班ごとに6か所のポイントを探しながら曽爾高原をめぐる「そにとウォークラリー」に出かけた。班の仲間と協力して亀山に向かって大声で叫んだり、みんなで記念写真を撮ったりしながら、グループのメンバーや他の人とのコミュニケーションを深めた。最後のミッションであるディスクゴルフでは、一枚のディスクを班全員で順番に投げ、ルールを守ってゴールにたどり着いた。



夜は、「ナイトハイク」を行った。「そにとウォークラリー」と、ほぼ同じコースをたどったが、日中とは違う暗闇の中を慎重に進んで行った。ゴール後、双眼鏡を使って満天の星空を観察して楽しんだ。

6月3日（日）

2日目のミッションとして、野外炊事で焼きそば作りを行った。各班で、カマド係と調理係に分かれて作業を進めた。出来上がった料理をスタッフが試食をし、「協力」「味」「盛り付け」で審査を行った。それぞれの班の良さやできばえを記したチェックカードをもらった子どもたちは、焼きそばをおいしくいただき、ごほうびのゼリーを食べた。



6. まとめ

一つひとつの「ミッション」を乗り越えていく過程を通じて、班の仲間意識が芽生え始めた。時には、自分の思いが上手く言葉で表現できなかつたり、相手に伝わらなかつたりしたときに、班から離れてしまう場面も見られたが、班としてのまとまりが徐々に出来上がっていく様子が感じられた。「冒険のキャンプ」では、班だけでなく、全員の仲間意識が育まれるよう、プログラムを進めたい。

（企画指導専門職 上田 考浩）